



に一回くらいは沖縄の海に来 たい。もちろん、僕の場合は 取材なのだけど、やっぱり何故かリラッ クスできる場所だから。

たまに、そんな機会を与えてくれるの が、恩納村にあるベントスダイバーズ。 オーナーの大原拓さん(以下拓ちゃん)とは、 僕がまだ新聞社時代に、某ダイビング雑 誌の取材で同じく沖縄のダイビングショッ プ<mark>を訪れたとき、スタッフと</mark>

して働いていた時以来の知 り合いだ。あまり多く無いダ イビング業界の知り合いの 中でも、最も古くからの知り

合いの一人でもある。

また、娘たちを大切にする子煩悩さも、 共感を感じているところ。

なんとなく「ほわ~ん」とした 印象が、一緒にいて、とて も居心地が良くて、自分の持つ、沖縄の イメージともマッチして、取材なのになんだ か余計にリラックスさせてくれる。

そんな雰囲気にもかかわらず、彼のダイ

ビングに対する情熱は結構 ハードだったりする。取材の 度に、テクニカルダイビング で潜ったり、リブリーザーの 資格取得体験取材だったり。 興味はあるし、取材ネタとし ても面白いのだけど、元来 がテキト~な性格の自分に は、細かいセッティングとか 覚えたりするので、向かない のかもしれないと思いながら も、ちょっと面白いから体験 してみようと、毎回彼の話

にノッてしまうんだ。

Scene,01



01. 空手は、ケーブダ イブなどを行なう上で、 自分の精神の鍛錬に もなっている

02, 過去にリブリー ザー講習ロケなども行 なった



夏の沖縄、恩納村

削直 たけど、この 恩納村を訪れたのは、「サ ンゴが復活してきたから、そ の復活したサンゴと、深場 でのリサーチで見つけたサ

ンゴの大群落を中心に恩納村の取材を して欲しい」という依頼を拓ちゃんから受 けたからだ。

浅場のサンゴの復活の兆しは、古くか ら沖縄の海を断片的に見てきた自分にも 明らかにわかる状況だった。「ホーシュー」 というポイントの棚の上には、かわいらし いサンゴたちが成長して、それまで岩礁 がむき出しでつるつるしていた印象だっ た場所にカラフルな彩りを添えていた。

サンゴフェチ?と言ってもいい拓ちゃん が最近ハマっているのが、クサビライシ。 「クサビラとはキノコの事で、クサビライ シ類の事を英語でマッシュルームコーラ ルと呼びます。それ自体ダイバーは知らな い人が多いけれど、サンゴーつの科の中 でも、世界に50種類、日本には37種い ると言われていますし

マッタイスズメダイ



と、事クサビライシに関 して質問すると、堰を切っ たかのようにしゃべりだす。 「自分がこのサンゴに興 味を持ったのは、サンゴな のに動くという意外性です。

ほとんどのサンゴが群体性で、固着生活 を送るのに対して、クサビライシの多くの 種が単体性で自由生活を送ります。それ に、ひっくりかえると自分で起き上がるん ですよ。すごくないですか! それにね… ………」と彼のクサビライシトークは延々 に続くのでした。

海の生き物って 意外性のある生き 物が本当に多い。 クラゲだって、イソ ギンチャクが移動し てるようなものだし ……。とは言わない

でおいた。

とって運が良いことに、恩 納村にある定番ポイントの 「なかゆくい」には、クサビライシの山(き のこの山)があり、見渡す限りクサビライシ が転がっていた。そんな環境だったので、 クサビライシに対する彼の興味は、ます ます増幅していった。

好きが講じて、今では、琉球大学の大 学院に通い、クサビライシの研究を始め るにまで至っている。

03.様々なクサビライシ 04, 蛍光色が美しいゾ

01,ユキンコボウシガ

ニの愛称を持つ、オ ガサワラカムリ

02、ミドリイシの仲間

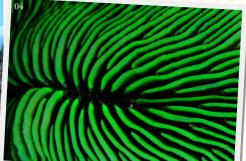












夏の沖縄、恩納村

OCEan[†](Cocean+ α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ない。 はともあれ、やはり自分が興味を惹かれたのは、深場のポイントリサーチ中に発見したというリュウモンサンゴ属の大群落だ。

新たなダイビングポイントリサーチ中に、 偶然発見。

「最初にそのポイントを見つけた時には、 見渡す限りサンゴの大群落が広がり、タイムスリップして別世界に迷い込んでしまっ たような不思議な感覚に捕われました。そう、まるで竜宮城に迷い込んでしまったよう な感じです」と拓ちゃん。

それもそのはず、そのエリアより浅い深度では、サンゴのガレ場や砂地が広がり、こんな状況でサンゴが元気に群生しているとは想像もしていなかったからだ。

「最初は、変わったハゼのいるガレ場でも無いかなと思ってリサーチしていたので、本当にびっくりしました」というそのサンゴ群落の深度は、水深30mからなんと水深45mにまで及ぶ。

拓ちゃんの思いに賛同して、一緒に調査 を進める協力者になったのが、琉球大学 准教授のジェイムス・デイビス・ライマー理 学博士。

同准教授はサンゴと同じ、刺胞動物の スナギンチャク研究の世界的な第一人者。 実際に自分自身で潜って、フィールドワーク

01, 発見されたリュウ モンサンゴ属のサン ゴの標本を採取する、 研究チーム 02, 多様性に富んだサ









を多く行なうことでも知られている。

ライマー准教授らの琉球大学調査 チームは、拓ちゃんとともに、早 速、群落の規模を計測し、長さ約150m幅 約80mに及ぶ群落であることを確認した。

そして ocean+ αロケで自分が恩納村に 滞在しているタイミングに合わせて、次なる 調査となる、群体の採集を行なった。

結果、学名でPachyeris foliosaという、 熱帯域に多くみられる種で、日本未記録 種である事が判明。この種のサンゴとして の北限を一気に押しあげた。

このリュウモンサンゴ属の周辺にも、多くの種類のサンゴが群生する場所が広がっていて、「これほどの多様性のあるサンゴの群落は、少なくとも沖縄の他のエリアでは、見た事が無い」と、ライマー准教授も驚きを隠せない。



「白化の回復 が遅い沖縄本 島にあっては、 本当に貴重な ものなので、こ のサンゴ群落の 環境を守り、見 守って行く必要

があると思います」とライマー准教授は、このサンゴ群落の重要性を強調し、大切に守って行く必要性を主張した。

多様性のあるサンゴ群落と、リュウモン サンゴ属のサンゴー種が隆盛を極めるエリ アに二分されるこの海域は、今後沖縄本 島のサンゴ分布にどのような影響を及ぼす のだろうか。

夏の沖縄、恩納村へ

ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます









緊急用のベールアウトを持って潜る拓ちゃん

夏の沖縄、恩納村

OCEAn ©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

→UGU」同様に、深場のリサー 【 チ中に発見した目玉のポイン トがもう一カ所ある。それが、水深45mの 根にあるスミレナガハナダイのコロニー。

サンゴの大群落が竜宮城ならば、こち らは、カラフル天女のように、舞い踊る、 スミレナガハナダイが乱舞する宴の間とで も言えるのではないか。

少し水深は深いが、深紅の衣を纏った

ハナダイたちの姿は、本当に美しい。

深いけど、エントリーポイントから 距離的にもそれほど遠くは無いの で、熟練ダイバーであれば、問題 無く見に行ける場所ではある。しか し、多少時間をかけての撮影となる と、シングルタンクの他に予備タン クを持って行ってもらえた方が安心。 ということで、取材のときの拓ちゃん の装備はご覧の通り。

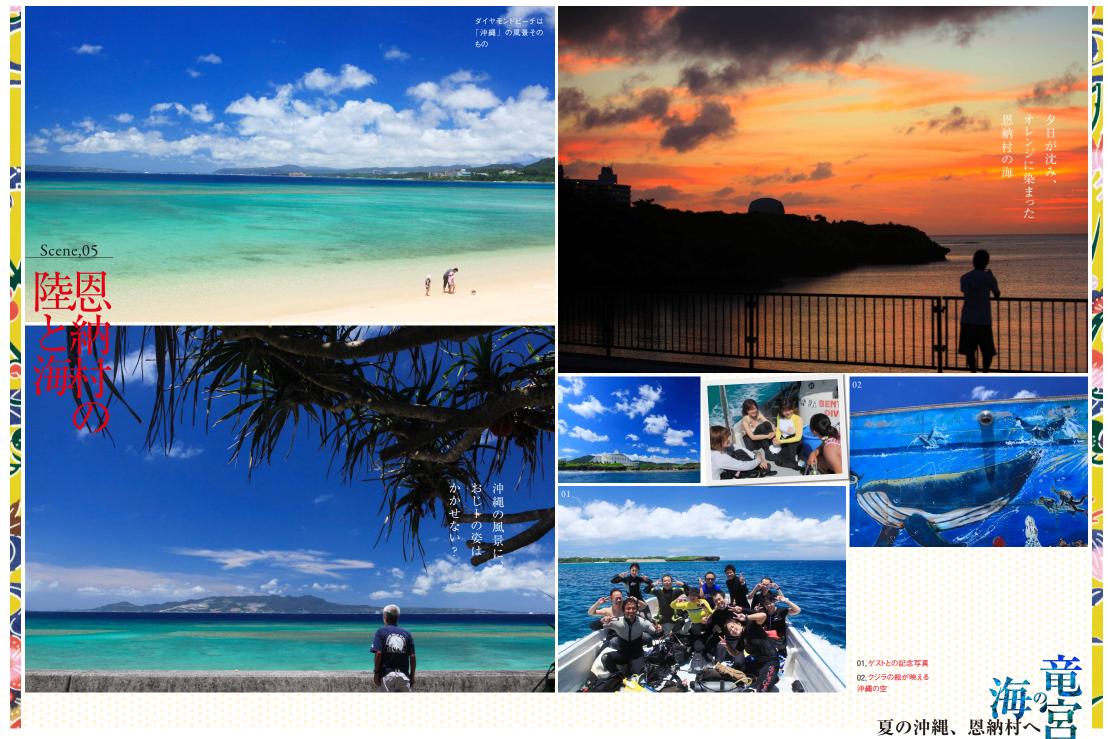
スミレナガハナダイのオス、メスだ けでなく、ケラマハナダイの個体数 も相当に多かった。

それに、根になっていて、あまり ハナダイたちが逃げ回らないので、 群れの写真撮影が取りやすかった。

フォト派で、こういうワイド写真を撮 りたい方、船が他のサービスと乗り合いな ので、その都合もあるかもしれないけど、リ クエストしてみてみるのもいいかもしれない。

は、恩納村のサンゴに着目 して取材をした。再生してき たサンゴや、深場のサンゴを美しく表現す ることはなかなか難しいことなのだけど、そ れ自体は、沖縄本島の海にとって、とても 重要な事だと思う。

Scene,04





Scene,06



北谷にある、きじむなぁ



ショップの上のきじむなぁからの眺め







する港 02、子煩悩な拓ちゃん 03,ポイントは、目の前

れる真っ白なビーチのあるダイ ビングショップは海に囲まれた沖縄にあっ ても珍しい貴重なロケーション。朝や夕暮 れに砂浜を歩いてみよう。家族連れにはス ノーケルもおすすめ。このビーチの開放感 こそ「夏の沖縄!」を感じることができる。

前にダイヤモンドビーチと呼ば

ダイビングポイントは港からボートでわずか5 分、遠くても20分。1本潜っては港に戻れ るダイビングスタイルは、離島のイメージに 近い。陸で休憩できるのは気持ちも身体も 楽であるし。好きな本数を潜ったり、午後 の到着でも余裕をもって楽しめる。

り続けた拓ちゃん、日本最 大級の海底鍾乳洞を調査し、日本初記録 のサンゴ群落を発 見しても、「この海 は広くて、深くて未 だ未知の世界を多 く残している」と言 う。「海の大きさに 比べたら頑張っても 人間が入り込める 世界はほんのわず か。だからこそ海に

は果てしない魅力があります」と拓ちゃん。 海のことをもっと知りたいと今年からは琉 球大学でサンゴの勉強もはじめた。

ベントスダイバーズ

〒904-0404 沖縄県国頭郡恩納村瀬良垣475 TEL 098-966-1730

01,乗り合いボートが出港

きじむなあ>>> http://www.omutaco.com

ダイビング後は

人気の"きじむなぁ"へ!

彼は沖縄で人気のタコライスのレストラン

"きじむなぁ"の経営者でもある。ベント

スダイバーズの2階と北谷のアメリカンビ

レッジにお店があり、ここで食べることが

できる「ふわっトロの卵に包まれたオムタ

コーは絶品なのでぜひ召し上がれ。

夏の沖縄、